

前(四月二十九日)ニ種痘ヲウケ現ニ善感痂皮ヲ有スル膿疱疹五個ヲ有ス。

依是痘疱性眼炎ナル事殆ド疑ナシト雖モ尙診斷ヲ確メント欲シ、家兎角膜ニ膿疱疹内容ヲ接種シテグアニイリ氏小體ヲ證明セリ。

治療ニ關シテハ如何ナル消毒劑ヲ用キルモ効ナク強烈ナルモノハ却ツテ組織ヲ損スルニ止ルヲ以テ局所ニ「ピオクタニン」ヲ塗布シ、綳帶ヲ施シ痂皮ノ剝離セル後、硼酸「ワゼリン」塗布ヲ行フ、而シテ全身免疫ノ發現ト共ニ自然治癒ヲ助クルニ止ム。

要之、本症例ハ何等稀有トスルニ足ラザレドモ種痘ニ對スル不注意ヨリカ、ル恐ルベキ眼炎ヲ招來スル事アルベキニヨリ種痘前後ノ消毒、注意ヲ充分ニスベキ所以ヲ示ス爲ニ之ヲ報告スルモノナリ。

## 眼組織ニ於ケル種痘免疫ニ關スル實驗

醫學博士 山 田 邦 彦

牛痘ニヨル活性一般免疫ニ際シ眼組織ノ免疫狀態ヲ檢シ、尙ホ眼局所免疫ニ於ケル眼組織相互關係及全身ニ及ボス關係ヲ檢シ、又活性一般免疫ヲ行ヘル際ノ血液及ビ腦髓ノ關係ヲ檢シテ次ノ結果ヲ得タリ。

(一)、痘苗ノ皮膚接種ニヨル全身免疫ニ於テハ痘苗ノ家兎硬腦膜下接種試驗ニヨリテ見ルニ腦髓及腦膜モ亦免疫現象ニ關與シ、而モ痘疱病原體ハ腦物質ニ對シテ特殊ノ親和力ヲ有ス。

(二)、痘苗ヲ家兎硬腦膜下ニ接種セル時、該腦髓物質ハ「グリセリン」生理的食鹽水混合液ニ貯フル時ニ其ノ傳染能力ヲ保有ス。

(三)、前處置ヲ施サル家兎ニ於テハ痘苗硬腦膜下接種ニヨリテ接種後四乃至十日目ニ於テ死ノ轉歸ヲトル。

(四)、大田原氏ノ研究ニヨレバ、種痘施行後一乃至三日間ニ得タル血液ヲ正常家兎辜丸ニ注射スル時ハ一定ノ變化ヲ

率丸ニ起ストイフモ、余ノ實驗ニ於テハ七例中ニ於テ陽性ト思惟セラル、モノ一例ニシテ該血液ヲ前房内ニ注入シタル際ニハ對照眼ニ比シテ差違ヲ認ムル能ハズ。

(五)、家兎皮膚接種ニヨル全身免疫ニ際シテ角膜、硝子體、前房ハ痘苗原液ノ再使用ニテハ免疫現象陰性ナルモ痘苗ヲ百倍ニ稀釋使用スル時ハ對照眼ニ比シテ著明ニ免疫ヲ有ス。

(六)、角膜接種ニヨリテハ全身免疫ハ得ラレズ、他眼角膜ノ免疫モ得ラレズ、但シ免疫セル同一眼ノ結膜ハ免疫性ヲ帶ブ。

(七)、角膜ニ接種スル時、同一角膜ニ局所免疫ヲ有ス。

(八)、硝子體、前房接種ニヨリテ全身免疫ハ得ラル。

### 喉頭護謨腫例ニ就テ 附、標本供覽

高 橋 富 藏

一、患者ハ四十五歳ノ男、喉頭護謨腫性浸潤ニヨリ喉頭狹窄ヲ來シ窒息死シタルモノナリ。

一、本例ハ主トシテ深部殊ニ甲狀軟骨部ヲ侵レタルモノニシテ左側假聲帶及竇ノ腫脹強ク右側同部ヲ外方ニ壓迫シ喉頭鏡検査ニヨリ癒痕癒着ヲ思ハシムル程ナリ。

一、護謨腫ハ核ニ富メル結締組織ヲ以テ包圍セラレ周圍ニ行クニ從ヒ核ノモシキ結締組織ニ移行ス。

一、何レノ部ニ於テモ新生血管多ク何レモ血液ヲ以テ充サレ其ノ周圍ニハ多數ノ「プラスマ細胞」ノ集合ヲ見ル。

一、主ナル病竇ハ主トシテ圓形細胞及「プラスマ細胞」ヨリナリ其ノ間ニ細菌ノ集合セル部ヲ見ル尙多數ノ「スピロヘーテ」ヲ見出セリ形態的ニハ「スピロヘーテ・バルリダ」ニ一致ス。

一、余ノ蒐集セル喉頭護謨腫例ノ多クハ三〇—四〇歳ノ間ニアリテ男女性ノ間ニ大差ナシ。